

# CSR報告書

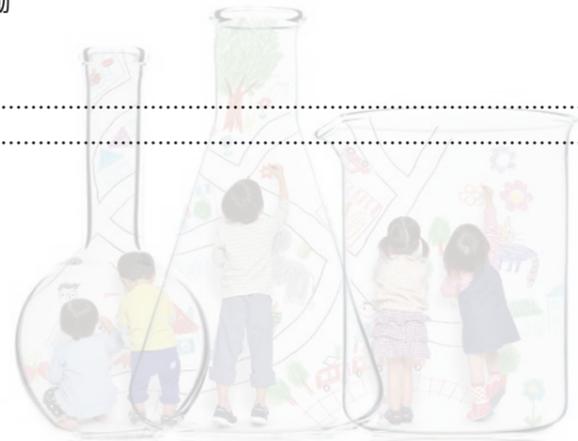
## 2018-2019

素材のチカラを  
未来のタカラに



# CONTENTS

戸田工業グループの経営理念とCSR方針	3
戸田工業グループの事業内容と歴史	4
身近な戸田工業グループの製品群	6
経営者ごあいさつ	8
特集① 戸田イスCORPORATION設立10周年	9
特集② リチウムイオン電池用正極材料事業の再構築	10
<b>-経営-</b>	12
1) コーポレート・ガバナンス	  
2) コンプライアンス	
<b>-経済-</b>	16
1) 2017年度 事業の概況	 
2) 株主総会と決算事業報告会	
3) 2018年度 経営計画	
<b>-品質-</b>	18
1) 製品品質の向上のために	 
2) お客様からの問合せへの対応状況	
3) 小集団活動	
4) 現場を強くする人材の育成	
<b>-環境安全-</b>	20
1) 環境負荷の低減	   
2) 持続可能な調達	
3) リスク管理	
4) 職場の安全・衛生	
5) 安全保障貿易	
6) 生物多様性への取組み	
<b>-社会-</b>	32
1) 人権の尊重	   
2) 社会や地域とのかかわり	
3) 働きやすさ(従業員インタビュー)	
4) 次世代育成支援、女性活躍推進活動	
5) クラブ活動	
6) 研修制度	
組織図	42
事業拠点	43



# 経営理念、経営方針、行動指針

戸田工業グループでは、2014年度に経営理念、経営方針、行動指針を刷新いたしました。役員・従業員一同、日々これらの理念等に立ち返り、各自の役割・業務にあたっております。

## 経営理念

私たちグループは、酸化鉄で培った微粒子合成技術を深化させながら、永遠に生々発展します。誠実・信頼を基盤とし創造力と製造力を結集させ、魅力ある獨創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献します。

## 経営方針

- ・設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「もの作り企業」としての経営基盤を確立します。
- ・Only1技術を磨き、付加価値の高い製品とソリューションを提供し続けます。
- ・グローバルで必要不可欠な存在となり、グループの企業価値を向上させます。
- ・従業員と家族の幸福を求め、ステークホルダーから常に信頼される存在となります。

## 行動指針

- ・お客様のニーズにお応えする製品とソリューションをスピーディーに提供します。
- ・製・技・販・管、全社一丸となって熱心に仕事に打ち込みます。
- ・誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観を持って行動します。
- ・個々の品格を高め、誇りと希望と夢を持ち続けます。
- ・地域社会および地球環境との調和と共生に努めます。

# CSR方針

戸田工業グループは、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に行うとともに、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内の諸規程、規則を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ち、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持ちません。

## CSR4つの指針

### ■投資家の皆様に向けて

創造的な技術に裏付けされた質の高い成長による成果の蓄積・提供、透明で健全なコーポレート・ガバナンス体制および有効な内部統制の整備・運用により、投資家の皆様の理解と共感を得る活動に努めます。

### ■お客様、取引先の皆様に向けて

お客様から見た価値観を共有し、独自に開発した技術力を武器とし、志を同じくする取引先業者と、よきパートナーシップで連携します。そして、誠心誠意、目標に向けて互恵の努力を続けます。

### ■社会に向けて

コンプライアンス精神に則り反社会的勢力との関係を断ち、安全と地球環境への配慮を何物にも優先させ、地域社会と連携し国際社会との協調を図りながら、持てる文化資本をベースに、グローバルレベルの素晴らしい生活文化を作ります。

### ■従業員に向けて

従業員一人ひとりの獨創性と多様性が、私たちの財産です。その能力の限りない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

# 戸田工業グループの事業内容

戸田工業グループは、酸化鉄の湿式合成から始まるナノテクノロジーをベースに事業展開しています。酸化鉄は鉄と酸素を中心とした元素の結合様式によって、色や硬さ、磁性や物理・化学特性が異なります。

戸田工業の湿式合成技術の特徴は、酸化鉄をはじめとする各種粒子の特性を制御し、求められる機能や特性に合わせて、各種素材を自在に作り分けることができることです。湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーの蓄積は、戸田工業のコアコンピタンスとなっています。

酸化鉄を核とした専門知識・技術・ノウハウの集積は、お客様の抱える課題に新しい角度から光を当て、素材の視点からの解決法・ソリューションを見出しています。

近年では、スマートフォン向けの非接触充電用フェライトシートなど、素材を熟知した戸田工業だからこそできる電子部材の開発・製造を進め、高度化するお客様のニーズに応えています。また、酸化鉄への原点回帰として、各種の触媒や磁石材料、顔料の開発・製造にも益々力を入れてまいります。

これからも、戸田工業グループ一丸となり、素材を通じて、情報・環境・エネルギーを支えるソリューションを提供してまいります。



戸田工業株式会社紹介ビデオ(4分30秒)を是非、ご覧下さい。



## 家電・通信機器

- ・磁石材料(家電モーター)
- ・携帯電話、スマートフォン製品用部品
- ・ウェアラブル製品用部品



## 塗料

- ・自動車用、事務機器用顔料
- ・建築、建材用顔料
- ・船底用防錆顔料



## 自動車

- ・電池材料(電気自動車)
- ・磁石材料(モーター/センサー)
- ・透明酸化鉄(コーティング)
- ・電子部品用機能性材料(インダクタ、コンデンサ)
- ・機能性酸化鉄(ブレーキパッド、防振、制振)



## 複写機・プリンター

- ・トナー材、キャリア
- ・磁石材料(マグロール)



## 環境・住生活

- ・鉛フリー材料(塩化ビニル安定剤、道路標示材)
- ・燃焼触媒
- ・汚染土壌改良剤

# 戸田工業グループの歴史

創業 1823年

1907年 広島市安佐北区に工場移転(広島工場)

1933年 広島市西区横川新町に戸田工業設立

1953年 東京営業所、大阪営業所を新設

1959年 山口県山陽小野田市に小野田工場を新設

1971年 広島市西区横川新町に本社移転

1936年 広島市中区舟入南に本社・工場移転

1953年 硫酸鉄を焼成して酸化鉄を製造する過程で、亜硫酸ガスが発生、大きな問題となる

1965年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服

1975年 舟入工場を研究・開発専用事業所とする。

1953年 京都大学との共同研究を開始。ベンガラ製造が伝統的な“技能”から“技術”として位置づけられる

1953年 広島工場にフェライト材料の生産工場を新設

1969年 小野田工場にオーディオ・ビデオテープ用磁性粉末生産設備を新設

1973年 小野田工場に湿式法による着色顔料工場新設

オーディオ・ビデオテープ用磁性粉末のシェア世界No.1!

鉄鋼製品の製造プロセスから副成する硫酸鉄や塩化鉄を原料として利用

産業廃棄物の削減、資源の有効利用に貢献

業界初! 酸化鉄の湿式合成法の開発

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォンNFCフェライトシート生産設備を新設

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォンNFCフェライトシート生産設備を新設

1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設

1991年 大竹工場内に創造本部大竹を新設

1994年 「戸田工業ヨーロッパGmbH」を設立

1996年 「戸田アメリカIncorporated」を設立

1997年 「戸田ピグメント株式会社」設立

2000年 広島市中区舟入南に本社移転

2003年 大竹市に本社移転

中国浙江省に全額出資の「戸田磁石材料(浙江)有限公司」を設立

2004年 中国浙江省に「浙江東磁戸田磁業有限公司」を設立

2006年 韓国に「戸田フェライトコリアCO.,LTD.」を設立

2007年 中国天津市に「戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司」を設立

2008年 カナダに「戸田アドバンスドマテリアルズInc.」を設立

2008年 「東京色材工業株式会社」の株式を100%取得

韓国に「戸田イース コーポレーション」を設立

2011年 中国浙江省の「戸田聯合実業(浙江)有限公司」を連結子会社化

2012年 中国広東省に「戸田磁鉄(深圳)有限公司」を設立

2014年 広島市に本社移転

2015年 「BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社」を設立

2016年 「戸田工業アジア(タイランド)CO.,Ltd」を設立

「戸田ファインテック株式会社」の株式を100%取得

1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010

1823年(文政6年) 岡山県井原市にてベンガラ製造を開始

人類最古の顔料、ベンガラの工業的製造から始まる

建築の木材塗料 絶染めの下地 漆器 番傘の着色 陶磁器(赤絵の釉薬)等

フェライトパウダー

ペレット

トナー材料

コンピューター デジタル記録テープ

湿式合成法を鉄以外の材料へ展開

ハイドロタルサイト

チタン酸バリウム使用例

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例(ゴミ袋、緩衝材)

カラートナー用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

1983年 東京証券取引所一部上場

1983年 広島市中区舟入南に創造センターを新設

1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設

1991年 大竹工場内に創造本部大竹を新設

海外進出がスタート!

1994年 「戸田工業ヨーロッパGmbH」を設立

1996年 「戸田アメリカIncorporated」を設立

1997年 「戸田ピグメント株式会社」設立

2000年 広島市中区舟入南に本社移転

2003年 大竹市に本社移転

中国浙江省に全額出資の「戸田磁石材料(浙江)有限公司」を設立

2004年 中国浙江省に「浙江東磁戸田磁業有限公司」を設立

2006年 韓国に「戸田フェライトコリアCO.,LTD.」を設立

2007年 中国天津市に「戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司」を設立

2008年 カナダに「戸田アドバンスドマテリアルズInc.」を設立

2008年 「東京色材工業株式会社」の株式を100%取得

韓国に「戸田イース コーポレーション」を設立

2011年 中国浙江省の「戸田聯合実業(浙江)有限公司」を連結子会社化

2012年 中国広東省に「戸田磁鉄(深圳)有限公司」を設立

2014年 広島市に本社移転

2015年 「BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社」を設立

2016年 「戸田工業アジア(タイランド)CO.,Ltd」を設立

「戸田ファインテック株式会社」の株式を100%取得

1980 1990 2000 2010

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォンNFCフェライトシート生産設備を新設

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発

1996年 大竹工場にカラートナー用キャリア材製造工程を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォンNFCフェライトシート生産設備を新設

トナー材料

コンピューター デジタル記録テープ

湿式合成法を鉄以外の材料へ展開

ハイドロタルサイト

チタン酸バリウム使用例

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例(ゴミ袋、緩衝材)

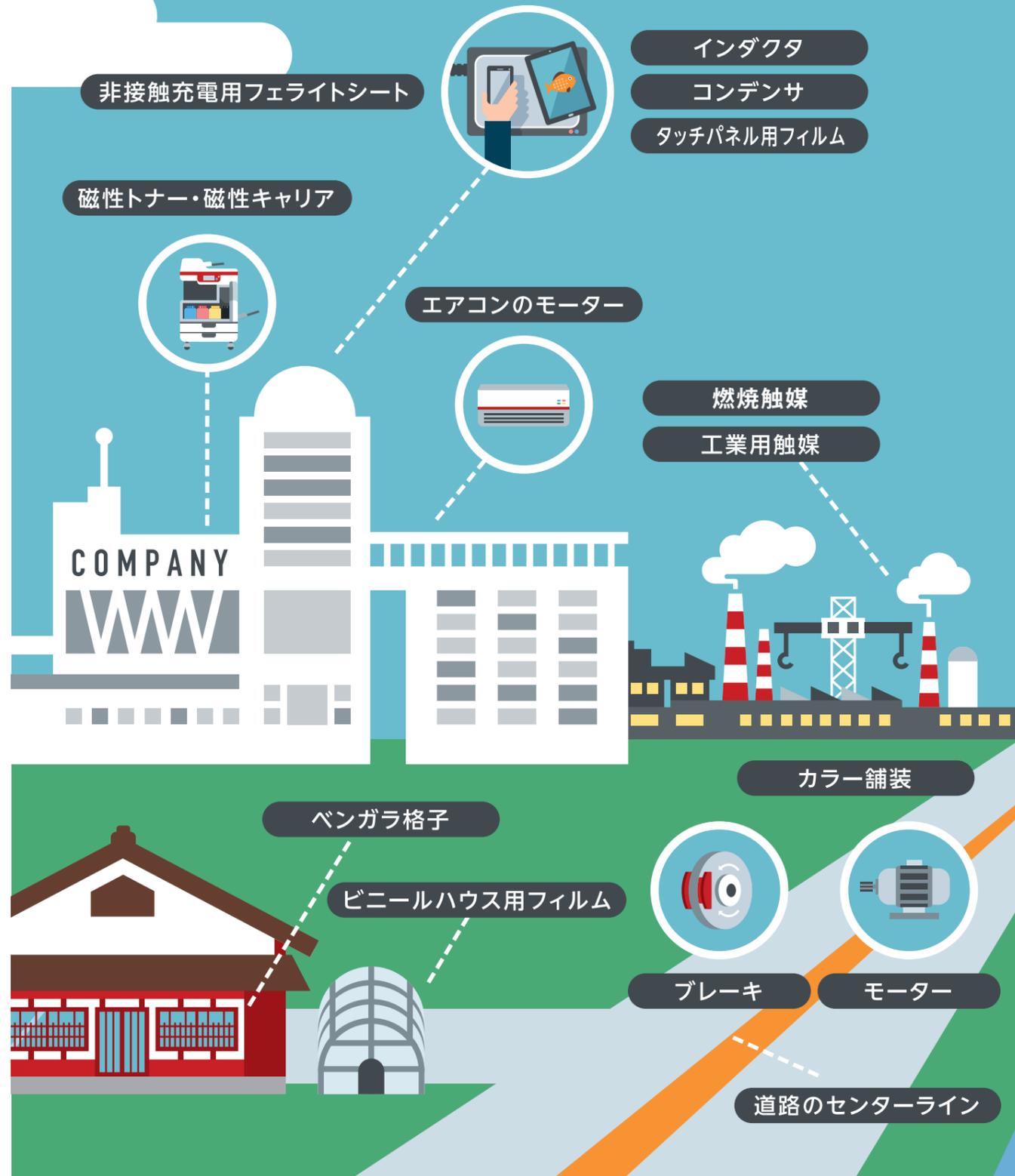
カラートナー用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

# 身近な戸田工業グループの製品群

戸田工業グループの素材は、皆様の身近な製品に多く使用されています。  
【素材のチカラを未来のタカラに】を合言葉に、最先端の素材力で、新たな価値を創造し続けます。



## 経営者ごあいさつ

戸田工業グループは、磁器の絵付けやベンガラ格子などで知られる酸化鉄着色顔料の製造会社として江戸時代末期に創業した化学素材メーカーです。現在では、自動車や通信機器分野で、高性能モーター用の磁石材料や非接触充電用フェライトシートなど、高度な電子化に必須の部品や材料も提供しています。

創業200年の節目まであと5年、グループの役員・従業員が一丸となり、これまで酸化鉄で培ってきた無機材料の微粒子合成技術を駆使して、時代の要請に確実に対応してまいります。

CSR報告書も本号で4号目となります。当社の製品のみならず、経済、品質、環境安全、社会の面から当社がどのように社会に対する責任を果たしているのかについてご紹介しますので、ご覧いただければと思います。本号からは、当社における活動とSDGs\*との関連性も示しています。一つの企業としての存続もさることながら、人類が豊かに存続していくための地球規模の取組みが求められる時代です。戸田工業グループでは、ガバナンスや事業活動を通じて、SDGsを理解した活動を進め、人類の豊かな発展に貢献していく所存です。

今後とも、ステークホルダーの皆様とともに生々発展できるよう邁進してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

たからぎ  
代表取締役社長 **寶來 茂**

※SDGs: "Sustainable Development Goals"。2015年9月に国連サミットで採択された、国際社会が2016年から2030年までに達成すべき、経済・社会・環境に関する17の開発目標。



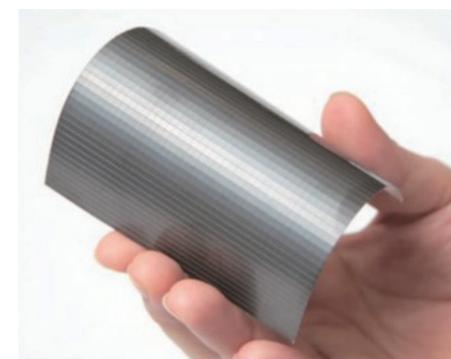
## 特集① 戸田イスCORPORATION設立10周年

2018年5月8日、2008年2月に設立した韓国の戸田イスCORPORATION (以下、「戸田イス」) の10周年記念式典が戸田工業の広島本社で開催されました。戸田イスは、韓国のISU CORPORATIONとの合弁会社で、フェライト粉、フェライトシート、インダクタなどの製造・販売を行っています。

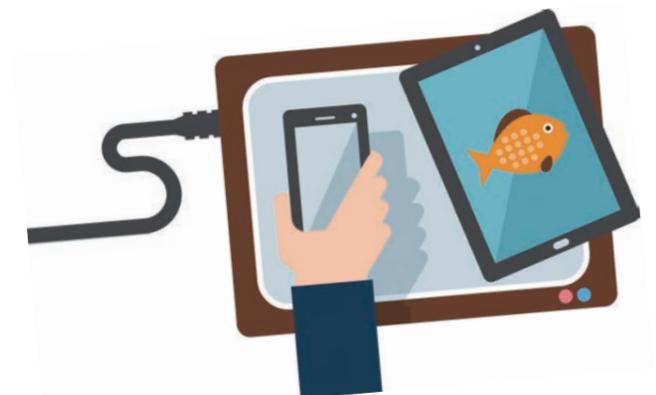
式典当日は、韓国からISU Groupの会長、ISU Corporationの社長も来日され、あたたかい雰囲気の中で、懇談会、大竹事業所の見学などを行いました。10年の間に戸田イスの事業は拡大し、今は戸田工業グループになくはない存在となっています。今後も現地のスタッフの皆さんや合併パートナーと協力しながら戸田イスを盛り立ててまいります。



広島本社での記念式典の様子



フェライトシート



## 特集② リチウムイオン電池用正極材料事業の再構築

### 1) BTA (BASF 戸田アメリカ有限責任会社) 設立

戸田工業の子会社である戸田アメリカIncorporated (以下、「TAI」) は、世界的な化学会社であるドイツのBASF SEを中心とするグループ (以下、「BASFグループ」) の米国法人であるBASF Corporation (以下、「BASF」) との間で共同事業に関する運営契約を締結し、米国においてBASFグループとリチウムイオン電池用正極材料事業に関する合併事業を開始しました。

TAIは、BASFが本業務提携のために新設したBASF戸田アメリカ有限責任会社 (米国LLC、以下、「BTA」) に対して、2018年3月8日出資をしたうえで、同日、TAIが保有するバトルクリーク工場 (米国ミシガン州) の資産をBTAに譲渡しました。BTAは、2015年に設立されたBASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社 (本社: 東京都港区) に続き、戸田工業グループとBASFグループの2度目の協業の主体となります。

新会社の商号	BASF戸田アメリカ有限責任会社 英語名: BASF TODA America LLC
事業内容	リチウムイオン電池用正極材料の製造および販売
持分比率	BASFが過半数を出資
社員	BASFおよびTAI

戸田工業グループは、酸化鉄で培った技術を深化させ、社会に貢献できる材料の開発を行っております。基幹事業である各種着色材料、磁石材料等の販売を拡大するとともに、高い将来性が期待されるリチウムイオン電池市場においては、BASFグループと2015年2月、国内に合併会社を新規設立し、日本、アジア、欧米のリチウムイオン電池メーカーへリチウムイオン電池用正極材料を供給し、グローバルに拡大する市場に対応してきました。今後、急拡大するリチウムイオン電池市場の需要に対して的確に供給できる体制を整えるため、米国においてもBASFグループと取り組んでいくことといたしました。

BASFグループは、主に化学品、プラスチック、農業関連製品、石油・ガス等を製造販売しており、正極材料および電解液についても取り組んでおります。



BTA外観

Kenneth Lane氏 (President, BASF Global Catalysts Division (左)) と 寶來社長



### 2) 「社会的価値・資本創出型M&Aアワード」特別賞受賞

戸田工業は、株式会社日本政策投資銀行 (以下、「DBJ」) の主催する「第4回社会的価値・資本創出型M&Aアワード」の特別賞を受賞しました (授賞式が2018年6月11日に行われました)。

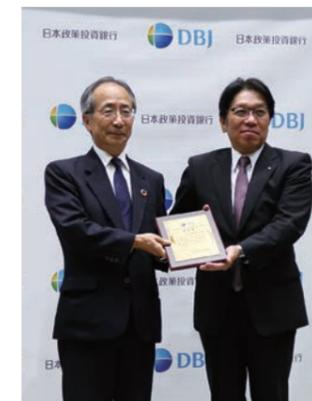
このアワードは、DBJが独自に開発した評価システムにより、社会的価値・資本の創出に優れたM&Aの取組みを選定し表彰するものです。

戸田工業グループは、BASFグループと行った、日本および米国における電気自動車向けリチウムイオン電池用正極材料事業を合併化する取組みについて、経済的価値のみならず「社会的にも優れたM&A (ソーシャルM&A) である」として高い評価をいただきました。BASFグループの調達力や販売網などを活用して生産能力の拡大を実現していることに加え、合併事業の主力生産拠点である小野田事業所などにおいて、新たな雇用や地域経済への波及効果を創出していることなどもご評価いただきました。

戸田工業グループは、BASFグループとリソースを結集することで、リチウムイオン電池市場における成長の鍵である製品開発、性能、コスト競争力、供給規模・能力を強化し、今後一層グローバルに拡大する市場に向けて的確に対応してまいります。



戸田工業グループのリチウムイオン電池用正極材料のサプライチェーン  
※BTBM=BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社



DBJ柳社長 (左) と 寶來社長



授賞式での寶來社長の挨拶

## 1) コーポレート・ガバナンス

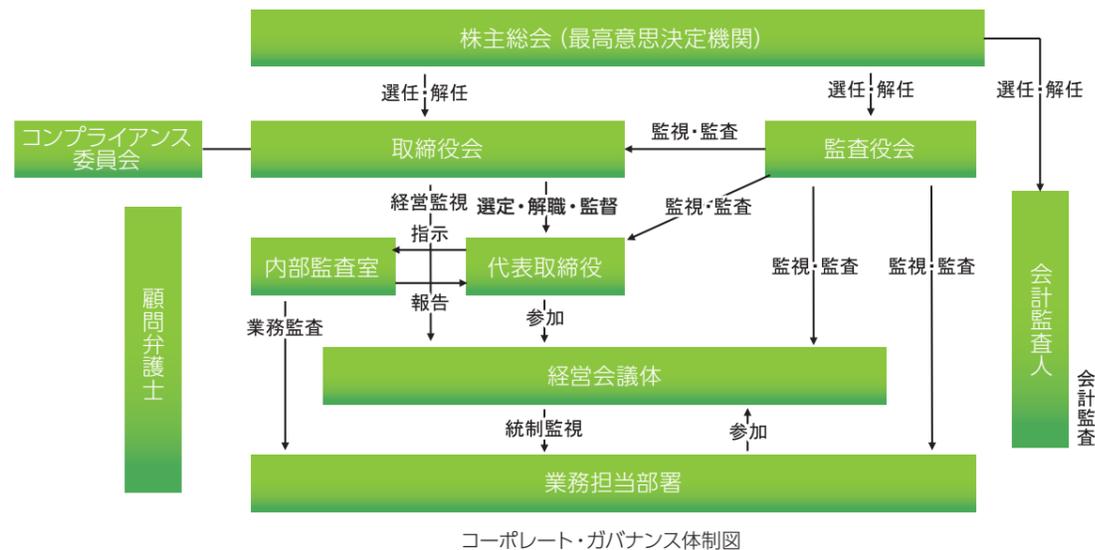
### <基本的な考え方>

戸田工業グループは、想像力と創造力を結集させ、魅力ある独創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献するとともに、株主、顧客、取引先、地域社会ならびに従業員およびその家族等、幅広いステークホルダーから常に信頼される存在となるため、経営の透明性、健全性および適法性を確保し、かつ、その効率性を高めることを経営の最重要課題の一つとし、コーポレート・ガバナンスの強化、充実に継続的に取り組んでまいります。

### <体制>

戸田工業は、株主総会を最高意思決定機関とし、重要な業務執行に関する意思決定機関である取締役会および業務執行を監督する機関である監査役会を設置するガバナンス体制を構築しています。

取締役会は、月1回の取締役会のみならず、業務上の必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速かつ的確な意思決定を実現しています。また、2名の社外取締役を活用することにより、取締役による相互の職務執行の監視、監督をより実効的なものにしていきます。さらに、独立性の高い社外監査役3名を含む監査役会による取締役会、その他の重要な会議に対する監査の実施により、業務執行に対する客観性および中立性の高い監視、監督体制を確保しています。



#### ●株主総会

戸田工業は、株主の皆様が権利を行使するために必要かつ適切な対応を行っています。また、株主の皆様に対し、事業の状況に関する報告および今後の事業戦略等に関する情報を提供し、戸田工業グループへのご理解を深めていただくよう努めています。株主の皆様と積極的な意見交換の場を設け、事業に関する建設的な対話を推進することにより、戸田工業グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図っています。

#### ●取締役会

取締役5名と社外取締役2名の合計7名で構成しております。取締役には、戸田工業グループの事業内容に精通し、戸田工業の強みである基礎開発技術の重要性を理解した者を候補者として定めており、重要な業務について、迅速かつ的確な意思決定を可能とする体制を確保しております。また、社外取締役には、経営者として相応しい素養、幅広い知見と業務経験を有する者を候補者として定め、より中立的、独立的な観点から、取締役の職務執行を監視、監督できる体制を構築しています。

#### ●監査役会

常勤監査役1名および社外監査役3名で構成されています。戸田工業の取締役会その他重要な会議へ出席し、必要に応じて意見を述べ、取締役の職務執行の適法性を監査しているほか、戸田工業グループの取締役等の役員および従業員から適切な情報を収集し、戸田工業グループ全体の業務の適法性、適正性の監査も実施しています。監査役会は、会計監査人および内部監査室と連携し、効率的かつ実効的な監査を実施しています。

#### ●内部監査室

戸田工業では、内部監査室を設置し、会計監査人および監査役会と相互に連携して戸田工業グループ全体に対する監査の効率化、品質の向上を図っています。

内部監査室は、主に業務監査（内部統制監査を含む）を実施しており、業務活動が当社の方針・計画・制度・諸規程に従って正しく行われているかについて監査を実施し、金融商品取引法に基づく内部統制の整備・運用の評価を行っています。

内部監査室は、戸田工業と戸田工業グループの会社を監査しています。その過程で改善すべき事項が見つかった場合は、改善指示および助言を行い、改善の結果を評価します。

2008年から始まった内部統制監査も今年で10年目になります。経営目標の達成に役立つ存在であるとともに、業務改善点への意見や助言を行い、外部環境の変化に対応しながらリスクの発見および軽減への取り組みを行ってまいります。

#### ●経営会議体

一定以上の規模の設備投資や取引等の案件について、取締役会における決議を経る前に審査するための機関であり、役員および案件に関連する各部署の従業員から構成されています。より事業内容に精通した役員および従業員による審査を通じ、リスクの高い案件の実行を未然に防止、または、適切な対策を講じるよう意見を述べることにより、取締役会による迅速な意思決定を支援しています。

## 2) コンプライアンス

### <基本的な考え方>

戸田工業グループは、誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観をもって行動することを行動指針の一つとしており、その指針のもとに、戸田工業グループ内のコンプライアンスの維持および向上に取り組んでいます。

### <コンプライアンス行動規範・推進規程>

戸田工業グループでは、「コンプライアンス行動規範」および「コンプライアンス推進規程」を定め、コンプライアンスの徹底および推進に努めています。

「コンプライアンス行動規範」は、戸田工業グループの役員および従業員の全員が、戸田工業の行動指針に基づき、法令、規則および社内規程等を遵守し、社会倫理・社会規範に適合した行動をとることを定めたものです。

「コンプライアンス推進規程」は、「コンプライアンス行動規範」の遵守を促進するための体制について定めたものです。戸田工業グループでは、この規程に基づいた体制を構築し、「コンプライアンス行動規範」の遵守の実効性を担保しています。



<推進体制>

戸田工業グループにおきましては、コンプライアンス委員会が、平時におけるコンプライアンスの基本的な方向性を決定し、コンプライアンス推進本部が実行し、内部監査室および法務グループと連携し、その徹底に取り組んでいます。また、具体的な問題が生じた際には、コンプライアンス委員会およびコンプライアンス推進本部が、問題の解決および再発防止策を講じ、コンプライアンスをより実効あるものとしています。

コンプライアンス推進体系図



●法務グループ

戸田工業グループによる法令、会社倫理もしくは契約違反またはその他のトラブルを未然に防止するという観点から、業務を行っています。

戸田工業の押印する書類や戸田工業グループの締結する契約に関する審査、他部署からの取引または契約等を行う際の問合せへの対応を行うことにより、通常の取引におけるトラブルの発生を防止しています。さらに、リスクの高い案件等、必要に応じて、社外の弁護士に相談し、会社に大きな不利益をもたらす問題を未然に防止するよう努めています。

また、新入社員や新たに役職に就く者に対する研修を実施し、従業員のコンプライアンス意識の育成、向上を図ることにより、戸田工業グループ内のコンプライアンスの徹底を図っています。

●コンプライアンス委員会・コンプライアンス推進本部

コンプライアンス委員会は、取締役、監査役等の役員、顧問弁護士および法務グループの責任者から構成され、コンプライアンス推進本部は、役員および各部署の責任者から構成されています。

平時においては、コンプライアンス委員会によるコンプライアンスの基本的な方向性の決定を受け、コンプライアンス推進本部が、コンプライアンスの啓発活動や研修の実施など具体的な施策を実施し、遵守状況を監視することにより、戸田工業グループ内のコンプライアンスの維持、向上を図っています。

有事においては、具体的なコンプライアンス違反またはそのおそれのある事案について、コンプライアンス委員会が審議、対応等を決定、コンプライアンス推進本部がその決定に従い、具体的な事案へ対応し、適切な防止策を講じています。

<相談窓口制度>

戸田工業では、法令または社会倫理違反を未然に防止し、または、早期に発見するため、「コンプライアンス推進規程」に基づき、各部署の担当者および社外の弁護士を窓口とする相談制度を設けています。

相談のあった事例については、コンプライアンス推進本部が調査し、違反のあった場合は、適切な措置および今後のために必要な対策を講じます。

この制度では、相談者の保護を図るべく、匿名での相談も受け付け、相談の事実およびその内容を秘密とし、相談者が不利益な措置を受けることのないように定められています。これらの制度に関する定めは、従業員が誰でも閲覧でき、利用しやすいように配慮されています。

<社内教育・啓蒙活動>

戸田工業では、戸田工業グループ内の従業員のコンプライアンス意識を向上させることを目的として、全従業員に対し、e-ラーニングおよびDVD等の資料を用いた社内教育を実施しています。

また、新入社員や新たに役職についた者に対して、法令、社会倫理規範等の遵守する意識を高めるための講義、全従業員に対する情報セキュリティに関する講義を定期的実施し、従業員がコンプライアンスの重要性を繰り返し認識するための機会を設けています。

さらに、コンプライアンスに関する情報を掲載した「コンプライアンス通信」を隔月で発行し、戸田工業グループ内の役員および従業員のコンプライアンスの啓蒙を図っています。この「コンプライアンス通信」は、平易な表現を用いる等、解り易さに配慮した内容となっており、役員および従業員のコンプライアンスの醸成を促進しています。

内部監査室へのインタビュー

Q: 内部監査ではどのような監査を行っていますか?

**内部監査室** 主に金融商品取引法の内部統制の監査を行います。連結ベースの財務報告の信頼性を高めるための取組みです。

Q: 財務報告の信頼性を高める取組みとは、具体的にどういったことですか?

**内部監査室** 財務報告に係る内部統制の整備・運用状況を定期的に評価し、各事業所・グループ各社にフィードバックすることにより、継続的に改善活動を行い、内部統制を強化することです。この取組みを内部監査室が統括し、取締役会等に報告しています。

Q: 社内ではどういった部署が監査の対象となるのですか?

**内部監査室** 戸田工業と戸田工業グループの会社の業務プロセスを評価します。業務プロセスとは、決算・財務報告をはじめ、購買・生産・販売・資産管理など、事業目的に大きく関わる重要なプロセスです。

Q: SDGsと内部統制はどのように関係するとお考えですか?

**内部監査室** SDGsは、2018年度社長方針にも謳われており、全社で取り組むべき活動です。内部統制の整備・運用により、特に「目標8:働きがいも経済成長も」、また「目標16:平和と公正をすべての人に」の実現に向け、少しでもお力添えできればと考えています。

Q: なぜ、内部統制が必要なのでしょう?

**内部監査室** 内部統制はトップ主導の取組みです。コンプライアンスを例にとると、単に法律を守るというだけでなく、その背景にある社会的要請を理解し、適応していくというトップの姿勢が、不正を発生させない企業風土を育むと考えています。

### 1) 2017年度 事業の概況 (2017年4月1日~2018年3月31日)

戸田工業グループにおきましては、スマートフォン向け非接触充電用フェライトシートおよび家電製品・自動車用途向け磁石材料の売上が伸長したことから、売上高は32,781百万円(前期比17.5%増)となりました。利益面においては、原材料価格高騰の影響があったものの内製化による原価低減活動等を推し進めたことにより原価率が改善いたしました。加えて、販売費および一般管理費の削減に向けた取組みを継続して実施したことから、営業利益は1,370百万円(前期は営業損失151百万円)と大幅な増加となりました。また、営業外収益として受取配当金88百万円等があったことから、経常利益は1,195百万円(前期は経常損失1,116百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は981百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失2,926百万円)となりました。



### 2) 株主総会と決算事業報告会

2018年6月27日に戸田工業の第85期定時株主総会が開催されました。今期も大勢の株主の皆様にご出席いただきました。戸田工業といたしましては、株主総会を株主の皆様との貴重なコミュニケーションの機会と位置付け、株主総会の議事がすべて終了した後は、毎回社長による経営近況報告会を開催し、株主の皆様へ戸田工業グループへのご理解を深めていただくよう努めております。また、戸田工業の製品が身の回りの製品にどのように使われているかについても、製品の展示や技術者による説明を通じてお伝えしております。

また、戸田工業では、投資家、アナリストや経済記者等を対象に、定期的に決算事業報告会を開催しています。2017年度の報告会は、2018年6月5日に東京で開催しました。



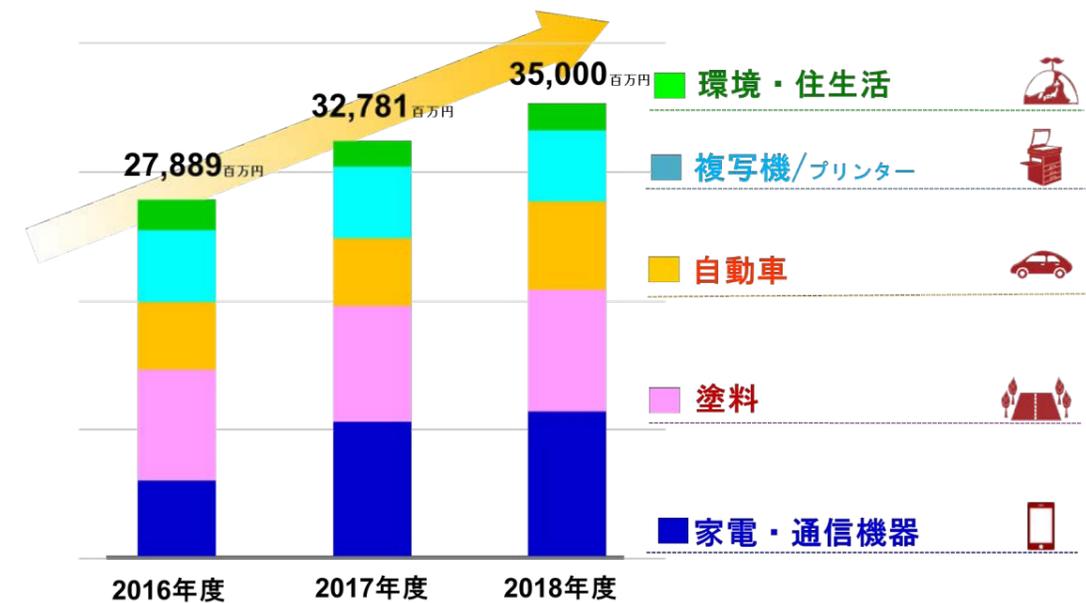
決算事業報告会の様子

### 3) 2018年度 経営計画

戸田工業グループでは、2013年度期中から2015年度にかけてのToda Step One、2016年度から1年間のToda Step Twoという中期経営計画のもと、営業利益の黒字化への基礎固めとさらなる成長に向け取り組んでまいりました。その結果、前頁でもご紹介したように、2017年度は純利益においても黒字化を達成することができました。今後も着実に成長を続けるべく、注力事業へのリソースの集中、組織力の強化などを促進していきます。

2018年度以降については、現在、中期的にどういったビジョンのもとで、どういった姿を目指すのかについて鋭意検討しております。中期経営計画は、まとまり次第公開する予定ですが、本報告書では、製品用途別の連結売上高の推移と今後の見通しについてご紹介します。

#### ① 2018年度 用途別連結売上高



#### ② 今後の見通し

大きなトピックスとして、戸田工業は、TDK株式会社(以下、「TDK」)との間で、2019年1月10日(予定)をもって資本業務提携を行うことを決議しました(2018年7月30日開催の取締役会)。

戸田工業グループとTDKは、両社が保有するリソースやノウハウを活用し、電子部品用途の材料・素材に係る商品の企画・開発、販売協力、ならびに物流業務に関する効率化・共有化を進めます。両者で電子素材事業を中心とした新商品の開発、国内外における原材料の調達、グローバルなネットワークを活用したマーケティング、ロジスティクス等で協働することが、戸田工業グループのビジネスチャンスの一層の拡大に寄与すると確信しております。

このTDKとの業務提携により、戸田工業グループおよびTDKそれぞれの技術・開発力、販売力、あるいは情報力などを持ち寄り、相互に補完することにより、両社が企図する製品競争力の強化や販売拡大、新市場の開拓などの実現を目指しています。

## 1) 製品品質向上のために

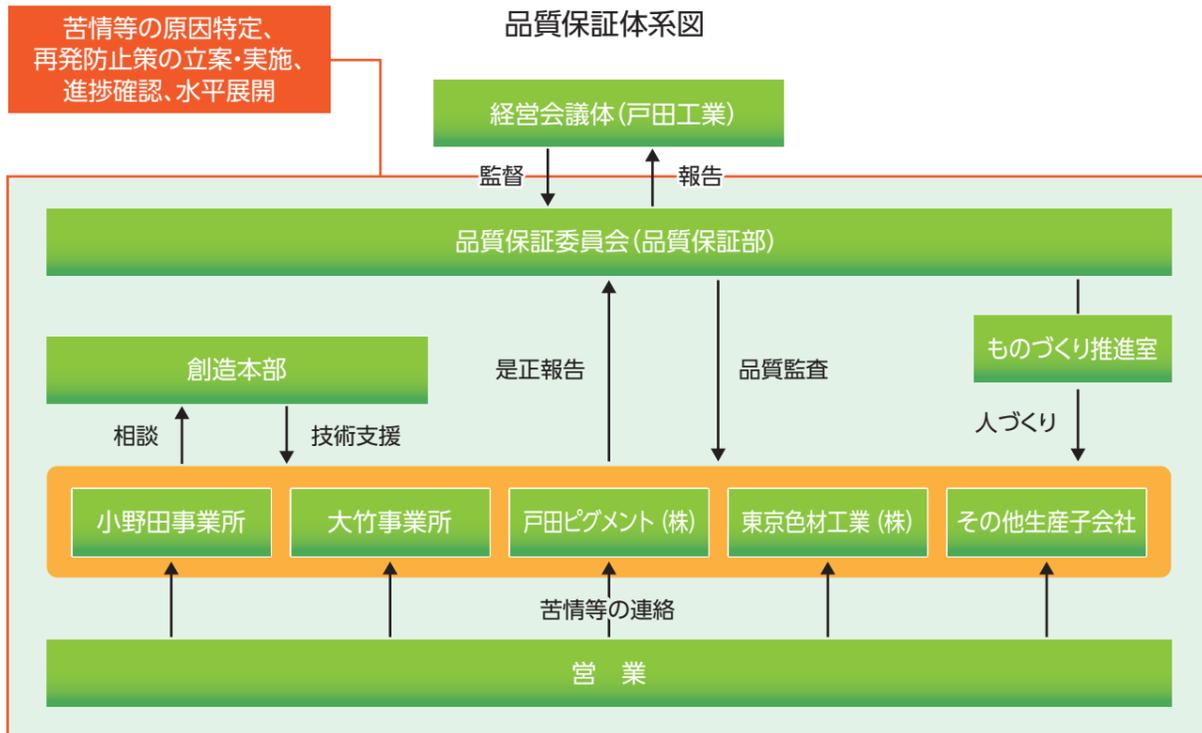
戸田工業グループでは、「継続的改善活動を展開し、顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」という品質方針を定め、以下の品質保証活動を推進しています。推進主体である品質保証部は、これらの品質保証活動を中立的な立場で、より実効的に推進するため、営業・開発・製造から独立した社長直轄の組織となっています。

品質保証部では品質委員会を主催し、戸田工業グループの各事業所の品質保証部門と情報を共有し、品質問題を全社で解決する体制を構築しております。戸田工業グループの製造部門に対する品質監査を行うほか、営業部門に届けられるお客様からの苦情・クレーム等に対する原因特定、再発防止の立案・実施、検証および水平展開を現場目線で展開しています。

2017年度は、品質管理教育活動を拡充するために、品質保証部の配下組織として「ものづくり推進室」を置いて、「ものづくりは人づくり」の観点で人材育成に取り組みました。2018年度は、「ものづくり推進室」を新たに設けた組織である人材開発部の直下に置き、連携してこの活動を支援してまいります。

### 品質保証活動の指針

1. ISO9001シリーズの要求事項の遵守を確認するとともに、品質保証システムのレベルアップを目的とした品質監査を実施します。
2. 法規制およびその他の要求事項の遵守状況を確認します。
3. 戸田工業グループの製品の品質向上のため、品質の分析、関係部門に対する改善指導および定期的な品質に関する検討会議（品質保証委員会）を行うことにより、総合的な品質改善を推進します。
4. 海外事業会社の品質保証体制強化を支援します。
5. 現場力を高めるための、人材教育を支援します。

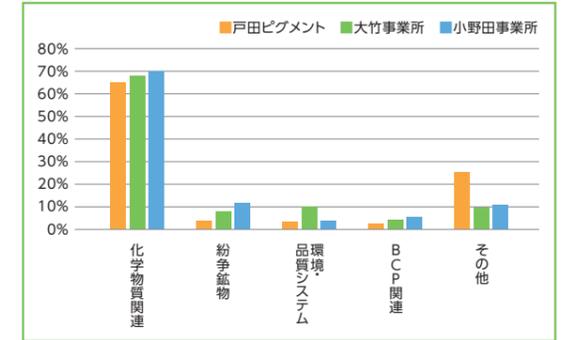


## 2) お客様からの問合せへの対応状況

戸田工業グループは、お客様からの製品やCSR等に関するお問合せに対して、迅速かつ丁寧にご回答することを心がけています。

その中で洗い出された課題に対しては、担当する部署と協力し、解決に向けて日夜取り組んでいます。

2017年度も右図のとおり化学物質関連のお問合せを中心に、多数のお問合せに真摯に対応させていただきました。



事業所別お客様お問合せ内容内訳

## 3) 小集団活動

戸田工業グループでは、各事業所および各生産子会社において生産現場のあるべき姿を「安全なくして効率なし。品質なくして信頼なし。変革（改善）なくして発展なし。」のスローガンのもとで意識付けし、課題の改善に向け協力会社と協力して小集団活動を積極的に行っております。

活動テーマの範囲を環境・安全にも広げ、この活動を通して現場の従業員の結束、意識・知識の向上とともに、発表会により現場間のノウハウの共有につなげています。



大竹事業所小集団活動発表会の様子

## 4) 現場を強くする人材の育成

ものづくり推進室では、「ものづくりは人づくり」という考えに基づき、自職場の問題点に気づき自立的に考えて改善できる風土を推進しています。

自職場で気づいた小さな問題点を「5S」で改善する風土を育成する「5S特区活動」を、2017年度から推進しています。この活動を通じて、見つけた課題を解決し、ムダを排除する力を育むことで、職場の活性化を進めています。2017年度は、この活動をベースにして、現場のあるべき姿を再認識して課題を「見える化」し、それらを改善する「QC的なものの見方・考え方」を学ぶ機会を設けました。具体的にはQCストーリー、変化点管理、なぜなぜ分析等について勉強会を開催しました。

2018年度は、これらの品質管理教育による人づくりを充実させるため、近年見直されているTQM(Total Quality Management)の思想を反映した人づくりに取り組んでまいります。現場力や組織力を高めて職場の問題や課題、スピーディーに変化する環境に適応できる人づくりを目指しています。



QCストーリー勉強会



## 1) 環境負荷の低減

### ①環境基本方針

戸田工業グループは、ISO14000シリーズによる環境管理を行い、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であると考え、自ら責任を持ち、グループをあげてその活動に取り組みます。

#### 具体的な行動規範

##### (1)高い環境保全目標の設定と実現

役員および従業員は、法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努める。

##### (2)革新的な環境技術開発の推進

役員および従業員は、顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発を進める。

##### (3)全員参加での継続的改善

役員および従業員は、すべての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染防止や、エネルギーおよび資源の有効活用について継続的改善を行う。

##### (4)環境に配慮した商品サービスの提供

役員および従業員は、商品とサービスの提供にあたっては、調達方針・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努める。

##### (5)意識の向上と責任ある環境保全活動の推進

役員および従業員は、一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識の向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進める。

##### (6)持続可能な社会の実現への貢献

役員および従業員は、環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献する。

##### (7)コミュニケーションを通じた社会の信頼の獲得

役員および従業員は、ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

### ②マネジメントシステムの導入状況

戸田工業グループでは、以下のマネジメントシステムを認証取得し、事業活動におけるPDCAサイクルを回しています。

ISO9001 ISO14001 OHSAS18001	ISO9001 ISO14001	ISO9001	
小野田事業所 大竹事業所	戸田ピグメント(株)	戸田磁鉄(深圳)有限公司 大竹創造センター:商品開発G	
	戸田フェライトコリアCO., LTD.		
	戸田イスCORPORATION	ISO14001	
	戸田麦格昆磁性材料(天津)有限公司		
	戸田塑磁材料(浙江)有限公司		大竹創造センター
	浙江東磁戸田磁業有限公司		
	浙江聯合顔料有限公司		
	戸田アメリカIncorporated		
戸田工業アジア(タイランド)Co., Ltd.			

### ③温暖化対策

戸田工業グループは、CSR・環境安全部が統括する環境委員会(国内グループ会社で構成)で温暖化対策を推進しています。2016年からは国際NGO:CDPの気候変動質問書へ回答するとともに、CSR・環境安全部を社長直轄として取締役会レベルで気候変動問題に取り組んでいます。

事業所の生産部門では生産性改善、設備部門では省エネ性能に優れた機器への更新、開発部門では生産性に優れた製造方法の開発等を行っています。また全従業員を対象として省エネ提案コンテストを開催し、優れた提案に対し賞金、表彰状を授与しています。2017年度は新規事業が立ち上がり、CO<sub>2</sub>排出量、原油換算のエネルギー使用量が上がっていますが、会社全体で温暖化対策を進めてまいります。

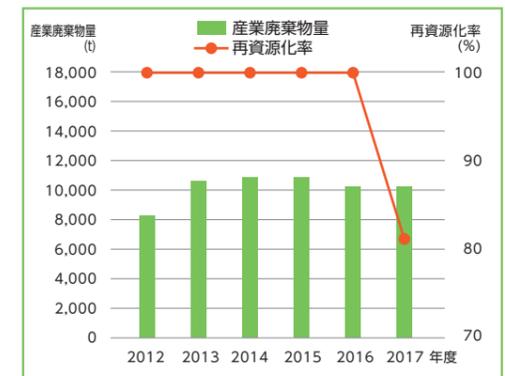


戸田工業における省エネ法定報告より

### ④廃棄物の再資源化

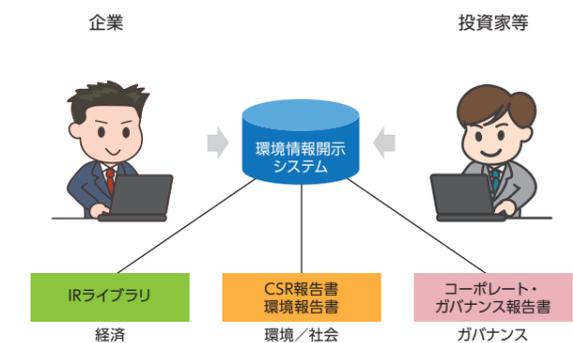
戸田工業グループでは、産業廃棄物の再資源化や再利用等の有効活用により、廃棄物最終処分(埋め立て処分)量ゼロ(ゼロ・エミッション)を目標とした活動を進めています。国内各事業所では、製造プロセスを見直すことにより、廃棄物の発生抑制や回収再使用を行っています。また、発生した鉄系無機汚泥は、セメント原料、混合燃料、触媒用途等としてリサイクルを行い、廃プラスチック・廃スクラップ・紙類などもリサイクルを推進しています。

このような活動成果により、2012~2016年度は、小野田、大竹事業所、戸田ピグメント(株)の合算での再資源化率99.9%以上を維持しておりました。2017年度は小野田事業所での増産に伴い発生汚泥の組成、物性が変化したことで再資源化処理業者の受入量が減少し再資源化率は80.8%に低下しました。今後は、汚泥発生量の削減、汚泥物性改善等の対策を進め、再資源化率の2016年度までの水準への回復を目指してまいります。



### ⑤環境省:環境情報開示基盤整備事業への登録

企業における環境への取組みは、企業の社会的責任において重要になってきています。企業評価はESG(環境、社会、ガバナンス)情報から総合的に行われます。環境省では、環境に取り組む企業が投資家等から適切に評価されるための対話を行う「ESG対話プラットフォーム」の本格運用に向けた実証事業「環境情報開示基盤整備事業」を展開しています。戸田工業グループもこれに参加し投資家等との会話を開始しました。



2) 持続可能な調達

①方針

戸田工業グループは、国連グローバルコンパクトの定める「人権」、「労働」、「環境」、「腐敗防止」に関して世界的価値観を共有し、「調達方針」、「指針」、「紛争鉱物に関する基本方針」に従い、取引先と持続可能性を高めることにより、事業競争力と企業価値を向上させ、社会への貢献を図ってまいります。

調達方針

当社は、創業以来、常に創造と創意工夫の精神を持ち、研鑽を積み、感覚と感性を磨き、価値の創造を目指してまいりました。当社が世界トップクラスの素材メーカーとして、今後もより一層社会に貢献できるよう、調達方針として以下を掲げます。

指針

- 1.法令の遵守：調達に関わるすべての活動において法令を遵守し、公正な取引を行います。
- 2.CSR：よりよき市民としての責任を認識し、自らCSR活動を行うと共に、志を同じくするお取引先様と連携し、社会貢献を果たしていきます。
- 3.グリーン調達：購買取引は、資源保護ならびに環境保全に留意した調達を行います。
- 4.公正公平な取引：購買取引は、広く取引市場を開放し、国内外を問わず公平かつ公正な基準にもとづいて行います。
- 5.取引先選定：取引先の品質、価格、納期等を総合的に評価し、また原価低減活動推進、新材料、新技術の提供可能性なども考慮した経済合理性に基づく選定を行います。
- 6.購買取引は、常に堅実性を旨とし、投機的な取引は行いません。
- 7.購買取引において提供される資料や情報は、厳格に管理いたします。

紛争鉱物に関する基本方針

コンゴ民主共和国およびその隣接国において、反政府勢力による重大な人権侵害や環境破壊が生じており、世界的に深刻な課題となっております。この地域で産出される鉱物（錫、タンタル、タングステン、金）の一部には、これらの勢力の資金源となっているもの（以下「紛争鉱物」と呼びます）があるとされています。

そうしたなか、米国で成立した「金融規制改革法」（ドッド・フランク法）において、米国上場企業は、「紛争鉱物」の製品への使用状況などについて、開示することを義務付けられました。

戸田工業グループは、こうした人権侵害や環境破壊に加担する意思はありません。戸田工業グループは継続的に、お客様やビジネスパートナーの皆様、業界団体等と連携を図りながら取り組みを進めて参ります。

戸田工業グループは、お取引様に対して電子業界CSRアライアンス(EICC)/Global e-Sustainability Initiative(GeSI)により確立された紛争フリー製錬所プログラム※に準拠した製錬所、または、その他の信頼のおける鉱物の採掘から加工、流通の経路を追跡するトレーサビリティプロジェクトにおいて紛争に加担していないと認定された製錬所からの調達をお願いしております。

※紛争フリー製錬所(CFS)プログラム:製錬所が扱う鉱物が紛争に加担していない調達源であることを第三者が認定するプログラム。

②取引先様調査

購買規程で取引先様調査を義務付けています。取引先様調査は、品質保証、供給能力、BCP/BCM、環境保全、人権、法令遵守、社会貢献など様々な側面から取引先様よりご回答をいただき、価値観を共有し、その取組みを通して、顧客、株主、社会の信頼、期待、安心を得ることを目的としています。

〈様式〉

**取引先様再調査表**

原材料・包材・消耗品・委託者・物流

年 月 日

貴社名	原料名称	ISO
所属	記入者	評価値
再調査の対象		評価値

下記項目についてご回答ください

1. 貴社は、品質システムとしてISO-9001を認証取得しておりますか？(プルダウンから「取得済、取得予定、未取得」を選択して下さい)  
 取得済 取得取得(予定)年月: 年 月 取得取得値: ISO 評価値
2. 貴社は、環境システムとしてISO-14001を認証取得しておりますか？(プルダウンから「取得済、取得予定、未取得」を選択して下さい)  
 取得済 取得取得(予定)年月: 年 月 取得取得値: ISO 評価値

項目	評価内容(プルダウンから) 評価点「4,3,2,1」を選択ください 4:良くできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない	評価点
組織	品質に関する理念、方針・目標が明確ですか 品質計画や品質保証体系が確立され、提示出来ていますか	
文書管理	品質文書の管理方法を定めていますか 品質文書は、最新版を使用し利用できなくなっていますか	
供給者の管理	二次(上流)サプライヤーにRoHS物質などの製品有害化学物質管理を指導していますか 製造工程等4Mを管理する場合は、会社に申請する制度は確立されていますか	
製造工程	検査/検査基準や品質管理の改善/教育を並列した場合は、処理方法や検査への連絡方法は明確になっていますか	
検査	検査基準は、明確に示されていますか 工場内検査は、適切に行われていますか	
不適合防止	ロット管理、又はその他の方法により狂戻品のトレーサビリティがとれますか 不適合品の処理方法について文書化されていますか	
教育・訓練	従業員に対して、品質に関する教育計画があり、実施されていますか 検査員の教育訓練は、保管されていますか	
環境方針	環境保全に関する理念、方針及び組織体制が確立されていますか 方針は文書化し全従業員に周知し、一般の人でも入手出来る様になっていますか	
目的・目標	戸田工業の事業所/小売店/事業所の調達方針をご存知ですか 環境保全に対する目的・目標を達成するための組織・推進責任者が明確になっていますか	
環境	目的・目標を達成する為の手段・方法等実行計画が明らかになっていますか エネルギー(電力、ガス、燃料等)使用量の削減目標を定めていますか	
エネルギー	廃棄物の分別、削減、リサイクルに取り組んでいますか 計画的な省資源、省エネ活動を行っていますか	
CSR	製品アクセスの仕組みが確立されていますか	
行動規範	戸田工業のホームページで公開しているCSR-環境情報ページ( <a href="http://www.todakogyo.co.jp/csr/">http://www.todakogyo.co.jp/csr/</a> )のCSR方針及びCSR行動規範、コンプライアンス行動規範、生物多様性行動規範、調達方針にご理解ご協力いただけますか。(プルダウンから「はい、いいえ」を選択ください)	
グリーン調達	環境保全に関する理念、方針及び組織体制が確立されていますか 化学物質管理/省エネルギー/省資源/リサイクル/梱包材/再生・分解・処理の容易性、生態系への影響などを考慮し、環境負荷の低減が配慮された製品・サービスを調達していますか	
労働安全衛生	労働安全衛生法に基づき規定する労働安全衛生の改善活動を継続的に実施していますか 化学物質の使用状況/改善策、当社の協力要請に適切に対応していますか	
BCP	事業活動の推進に支障をきたさないよう継続的に実施されていますか 災害などの不測の事態においても、事業を継続することを目的としたBCPが有りますか(プルダウンから「作成済、未作成、作成予定」を選択ください) BCP作成(予定)年月: 年 月	
他	紛争鉱物 当社に納入している貴社製品にコンゴ民主共和国及び隣国産出の紛争鉱物に類して厳密なBCP(紛争鉱物報告テンプレート)を提出いただきます。(プルダウンから「はい、いいえ」を選択ください) 「いいえ」を選択した場合は理由をご回答ください。 自己評価値(ISO取得ポイントを含む) /126	



③グリーン調達

グリーン購入法の特定調達品目は、2001年度に14分野101品目でスタートし、2018年度には21分野275品目となりました(2018年2月閣議決定)。国が公開している「グリーン購入の調達者の手引き(2018年2月)」を参考にし、化学物質管理、省エネルギー、省資源、リサイクル、梱包材、再生・分解・処理の容易性、生態系への影響などを考慮し、環境負荷の低減が配慮された製品・サービスを調達しています。

対象商品：紙類、文具類、家電製品、オフィス機器、温水器、照明、作業服等、エアコンディショナー等、消火器  
参考となる環境ラベル等



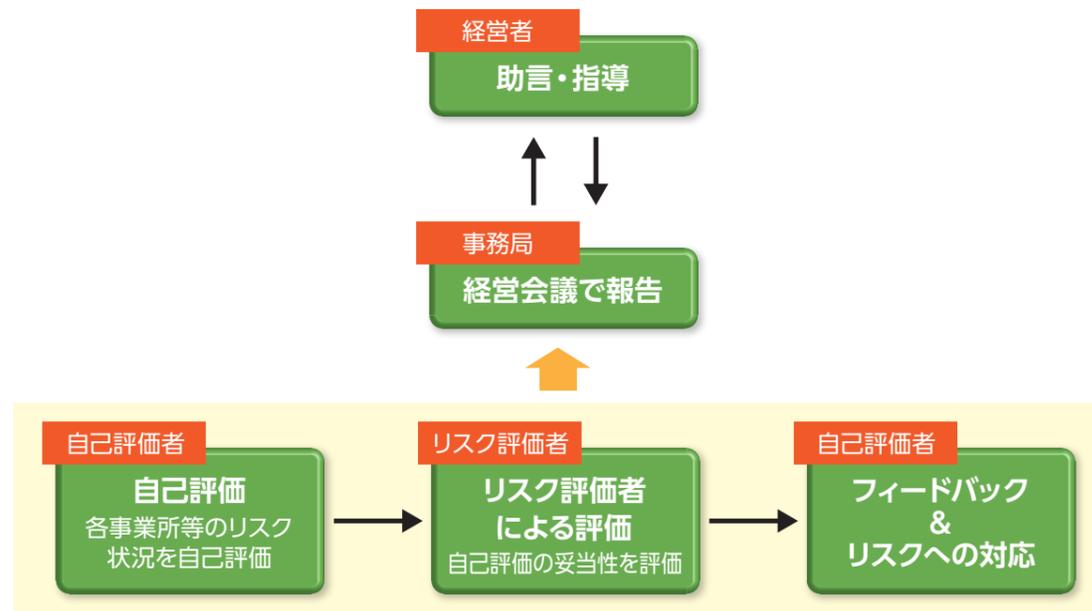
サプライチェーンの皆様と連携し、持続可能な調達を推進します。

## 3) リスク管理

### ① リスク管理

戸田工業グループでは、「リスク管理規程」を定め、これに従って戸田工業グループ全体を取りまくリスクの洗い出し、評価、訓練等を実施しています。

2017年度からは、リスク管理チームを立ち上げ、リスク管理がより実効的なものとなるよう取組みを進めています。具体的には、各リスクカテゴリーについて、社内でのスペシャリストを「リスク評価者」として任命し、事業所・事業会社が自己評価したリスク状況の評価を行っています。



現状リスクとして認識しているのは、大項目では以下の4つで、細かく分類すると40余りのリスクを評価しています。

- (1) 政治・経済・社会リスク(戦争・テロの発生、重大な景気変動など)
- (2) 災害リスク(インフラの停止、地震の発生など)
- (3) 業務リスク(貸し倒れの発生、訴訟の提起、労務問題の発生など)
- (4) 経営リスク(敵対的買収など)

リスク管理は会社の存続にとって必須のものです。以下のBCP(事業継続計画)と合わせて、今後も重点的に取り組んでまいります。

### ② BCP/防災活動

#### (1) BCP

戸田工業グループでは、事業継続基本方針に基づき、国内外の事業所を含む全社レベルでBCPに取り組んでいます。

#### (2) 緊急時対応訓練

各事業所において、重油・灯油・LPG・水素ガスなどの可燃物を多量に取り扱うことから、火災や爆発のリスクや化学物質流出による汚染リスクがありますが、これらの潜在リスクを発現させないため、日常・定期点検を実施するとともに保安体制を整備しています。事業所内で緊急時対応訓練を毎年実施しております。地震による①「人的被害」②「火災発生」③「建物被害」を想定して、避難、救助、消防等の訓練を行っています。



東京色材工業(株) 2017年11月16日 防災訓練



戸田ピグメント(株) 2017年9月26日 防災訓練  
負傷者の応急手当



戸田ピグメント(株) 2017年9月26日 防災訓練  
初期消火活動



小野田事業所 2017年11月13日 防災訓練  
本部隊長報告



小野田事業所  
2017年11月13日 防災訓練  
タイムライン記録風景



大竹事業所  
2017年11月13日 防災訓練  
負傷者の避難



大竹事業所  
2017年11月13日 防災訓練  
初期消火

4) 職場の安全・衛生

① 戸田工業の安全憲法

前文) 戸田工業は安全第一の理念をもとに一人ひとりの家族を含めた幸福を守るために労働災害の防止に取り組む。

- 第1条 人命と人の安全を最優先する。
- 第2条 安全は全員参加で達成される。
- 第3条 安全人材の育成をおこなう。
- 第4条 不安全状態を放置せず、除去あるいは改善する。
- 第5条 安全は「5S」を基本とする。
- 第6条 すべての働く人は、定められた規則を守って作業する。
- 第7条 災害の原因究明と再発防止は徹底しておこなう。
- 第8条 事前のリスクアセスメントで本質安全を目指す。
- 第9条 快適職場の創造を追究する。

② 安全・衛生活動

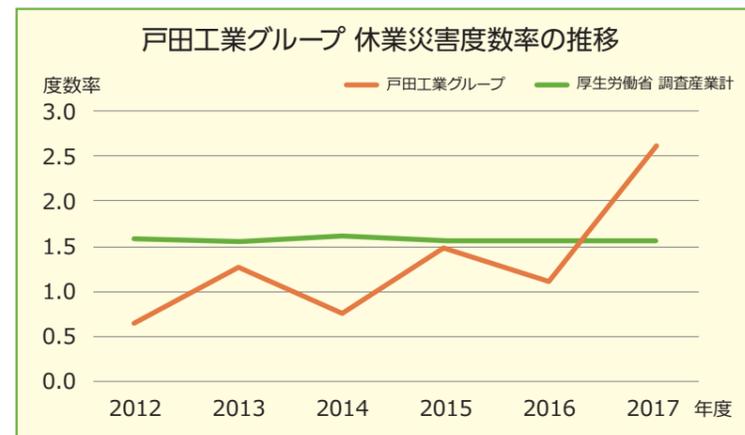
戸田工業グループでは、グループ全体の労働安全・衛生活動に統一性を持たせる目的で、以下のような取組み体制で運営しています。

- ・中央総括安全委員会のもとに、各事業所の安全衛生委員会を運営
  - ・教育、啓蒙活動を中心に支援活動を行う安全推進センターと協働
- 上記の体制とすることで、グループ全体への安全・衛生風土育成を推進しています。

(1) 労働災害に関するデータ

2017年度の休業災害は、グループ全体で4件発生してしまいました。グループ従業員で3件、場内の協力会社従業員で1件の災害が発生しました。この結果を受け、各事業所の安全・衛生管理体制の強化の第一歩として、組織の点検作業を行いました。

各月で安全・衛生に関わる情報を発信し全従業員への啓蒙を図り、また不幸にも発生した労働災害では、事故情報を現場作業者に確実かつタイムリーに情報配信するとともに、全作業員が過去の事故事例に学び、再発防止策を確認するなど、各事業所の安全衛生委員会と連携して、我々の悲願である“労働災害の撲滅”を目標に引き続き活動を展開してまいります。



※度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの。

(2) 安全活動

小野田事業所および大竹事業所では、毎年、全国安全週間、衛生週間を前に「安全大会」を開催しています。小野田事業所では、宇部労働基準監督署、大竹事業所では廿日市労働基準監督署より講師をお招きして、災害の動向、災害の防止計画について従業員と共に傾聴させていただく場を設け安全意識の高揚を図り、また、前年度の災害発生状況を再認識し当年度の目標を見つめ直し、設定する場として活動を行っています。



小野田事業所安全大会



大竹事業所安全大会

(3) 各種講習・セミナーの開催

戸田工業グループでは、“低圧電気取扱特別教育”、“KYT講習”、“保護具フィットネス講習”、“メンタルヘルスクエア講習”、“VDT作業”等、法的な特別講習に限らず、各事業所毎に設定した重点テーマに焦点をあてた講習を随時実施することにより、グループ従業員の安全・衛生に関する正しい認識の普及に努めています。



戸田ピグメント(株)で開催したメンタルヘルスクエア講習会

(4) 安全道場での活動

安全推進センターを中心に、関連会社を含む全従業員を対象として安全道場を開催しています。

この安全道場では、短い時間ではありますが半日をかけて、安全衛生の基本として捉えている“5S”、“KYT”を座学として講義しています。



安全道場 座学風景

さらに、参加する各人に「危険とは何か」「危険な状況への気付き」など、安全の大切さを“からだ全体”で感じていただくよう、“荷吊り上げ時の危険”、“被液に係わる危険”、“一本吊り安全帯のぶら下がり体験”など、工夫を凝らした体感装置および指導方法を採用し、参加者自身が危険を疑似体験・体感し、危険への気付きの場となるよう運用しています。



安全道場の入口と各種体感風景



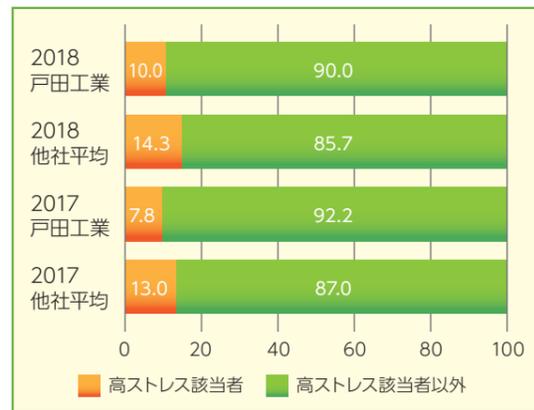
③健康増進に向けた取組み

(1)従業員の健康保持・増進

戸田工業グループでは、労働安全衛生法に基づき、従業員の雇用時と年1回以上の一般健康診断はもとより、特定の業務に従事する従業員に対しては特殊健康診断を併せて実施しています。得られた健康診断結果を分析し、各事業所の安全衛生委員会等における健康維持・増進活動に反映させています。

(2)ストレスチェック実施状況

労働安全衛生法の改正に伴い、戸田工業グループでは、2016年4月1日付けでストレスチェック制度実施規程を制定し、全従業員を対象に年1回ストレスチェックを実施しています。2018年6月の結果では、高ストレス該当者比率は全受検者の10.0%であり、2017年度に比べて若干増加しておりますが、ストレスチェック実施委託会社(受検者40万人)の平均比率14.3%に比べて低い値を維持しています。



本社でのメンタルヘルスケアDVD教育の様子

メンタルヘルス対策の各種施策については、厚生労働省が定めた「労働者の心の健康の保持増進のための指針」を踏まえながら、積極的に取り組んでいます。「セルフケア」、「ラインによるケア」、「事業場内産業保健スタッフ等によるケア」および「事業場外資源によるケア」の「4つのケア」に基づいたセルフケアとして、上記のストレスチェックを実施するとともに、メンタルヘルス講習を含めた各種研修の実施や社内外の医療スタッフによる健康相談により、社内外で相談しやすい環境づくりに努めています。

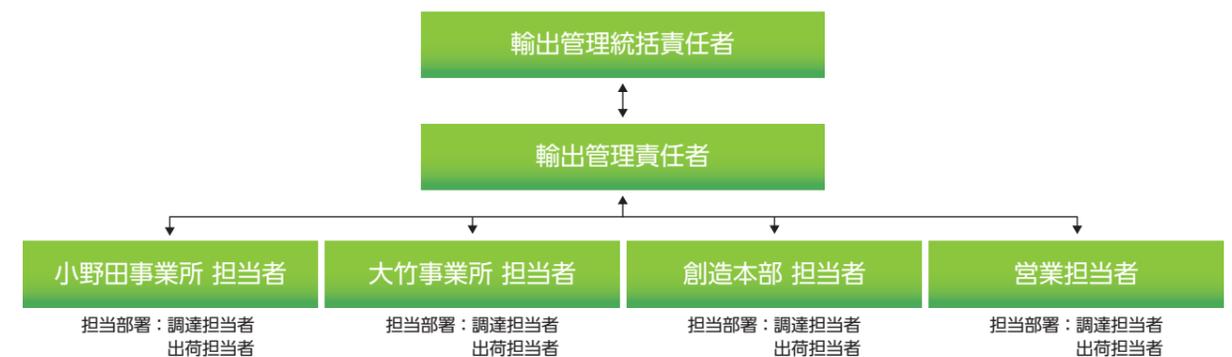
5) 安全保障貿易

戸田工業グループは、安全保障輸出管理規程を制定し、法令を遵守するのみならず、国際的な平和と安全の維持に貢献することを宣言します。

戸田工業グループでは、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等に渡ることを防ぐため、当社製品・技術情報などを輸出、提供する際は、外国為替および外国貿易法(外為法)および適用されるその他の国際法、外国法に基づき、国際社会と協調して誠実に輸出管理を行っています。



安全保障輸出管理の組織



〈安全保障輸出管理のお問合せ〉

当社製品または関連する技術の安全保障輸出管理についてのお問合せは、最寄りの技術・営業担当者へお願い申し上げます。

## 6) 生物多様性への取組み

### ①行動指針のご紹介

戸田工業グループでは、地球環境の保全に寄与するため、生物多様性に配慮した以下の具体的な行動指針を定め、事業活動を推進しています。

### 生物多様性行動指針

1. 生物多様性の保全を企業における重要課題のひとつと認識し、環境経営に取り組む。
2. 原材料調達方針を含む事業活動が生物多様性に与える影響を把握し、その影響の継続的な削減に努める。
3. 自らの事業活動はもとより、サプライチェーンとも連携した省資源、省エネルギー、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を、継続的に推進する。
4. 生物多様性保全に寄与する製品の製造、技術開発、生産プロセス革新を推進する。
5. お客様、仕入先様、他の企業、NGO、教育・研究機関、地方自治体等とのコミュニケーションの拡充、連携・協力を努める。
6. 生物多様性の保全には従業員一人ひとりの活動が重要であることから、従業員への教育を通して、豊かな生態系の保護に対する認識を高める。

また、生物多様性の保全に向け、各事業所近隣の河川や道路沿いの環境美化活動を行っています。



大竹事業所に隣接した恵川の清掃



戸田ピグメント(株) 近隣県道(小倉地区)側溝の泥上げ



大竹事業所外郭、恵川河口付近の防波堤と緑地帯

### ②防波堤と緑地帯 (大竹事業所)

大竹事業所の外郭、恵川河口付近の防波堤沿いは、トンボが飛び交い小鳥もさえずる自然豊かな森林緑地帯となっています。お昼休みは、従業員の憩いの場、健康ウォーキングコースとなっています。

### ③大竹市小瀬川干潟観察会への参加(以下は、参加者からのコメントです)

地方自治体による環境保全活動の一環として、大竹市が実施している「大竹市小瀬川干潟観察会」(2017年7月23日)に参加しました。海の中に入り、全長約8メートルの曳き網を参加者と協力して引っ張っての生物採集や、参加者の熱中症対策支援などのボランティア活動を行いました。

当日、天候は曇りながら最高気温33℃と蒸し暑く、ゴム胴長を履いての不慣れなぬかるみ作業は、サウナの中にいるようで汗が止まりませんでした。2012年以降、ほぼ毎年参加していますが、今回は大物狙いでかなり沖まで入りましたので、波の影響もあり例年以上にびしょ濡れになりました。子どもたちとともに、身近な海の生物多様性を実感できる貴重な機会となっております(写真は、大竹市市民生活部環境整備課様よりご提供いただきました)。



大竹市小瀬川河口干潟での生きもの採集と観察風景





## 1) 人権の尊重

戸田工業グループは、従業員一人ひとりの独創性と多様性を財産として、その能力の限りのない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

CSR行動規範 「10. 人権の尊重、雇用、労働」において基本方針、具体的行動規範を定めています。

### <基本方針>

戸田工業グループは、相互理解の前提となる基本的人権を常に尊重します。また、戸田工業グループは、人種、信条、性別、社会的身分、国籍、疾病、障害等による差別は行いません。

### <具体的行動規範>

#### (1) 一切の差別の排除

役員および従業員は、個人の基本的人権を尊重し、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等、人権を無視する行為をしてはならない。

#### (2) 個人のプライバシーの保護

役員および従業員は、事業活動上社内外の個人情報に接する場合には、その取扱いに当たって、個人のプライバシーが侵害されることのないよう細心の注意を払うとともに、適切に管理しなければならない。

#### (3) 不当な労働の排除

役員および従業員は、不当な労働を排除しなければならない。また、各国・地域の法令が定める雇用最低年齢には満たない児童を仕事につかせてはならない。役員および従業員は、戸田工業グループと同様の対応をご販売店・ご協力会社にも求めなければならない。

### ① 制度の充実

「ハラスメント防止規程」、「個人情報の保護に関する規程」、「育児介護休業規程」、「私傷病による休務および職場復帰に関する規程」、「ストレスチェック制度実施規程」、「コンプライアンス推進規程」、「コンプライアンス相談窓口制度」などを制定し、グループ全体で人権の尊重に努めています。

### 相談窓口制度

ハラスメントに関する相談・苦情に対して人事総務部に相談窓口を設け、ハラスメント防止規程に沿った適切な対応を行っています。

### 社内意識調査

2015年度に全従業員を対象に意識調査を実施しました。その結果に基づき、「より切磋琢磨できる環境・制度」を充実させた新人事制度を構築しました。

### ② 人権尊重に係る取組み

戸田工業グループのグローバル化およびダイバーシティへの取組みとして、戸田工業における外国籍従業員の雇用推進、海外子会社スタッフへの研修支援、および海外赴任者への教育等を行っています。2017年度の活動事例を紹介いたします。

#### (1) 外国籍学生の定期採用活動

2018年度定期採用者9名のうち、外国籍の方を3名採用いたしました(外国籍従業員総数7名)。日本で円滑に生活および仕事をしていただくために、入社前に日本語学力アップのための通信教育等を実施しております。

#### (2) 海外子会社スタッフに対する研修支援

海外子会社の現地マネージャー(外国籍)のキャリアアップのために、2017年度から戸田工業では教育支援を開始しました。



海外子会社現地マネージャーの研修風景(開催地:日本)

#### (3) 海外赴任者への教育

海外子会社に赴任している日本人に対して、円滑な子会社経営のために各種研修(異文化ビジネスの基本等)を実施しています。

#### (4) 外国籍の従業員、協力会社社員への教育

言語、宗教、文化、習慣等の違いから、様々な人権問題が発生しないよう、戸田工業グループでは現地の言葉を用いて教育を行っています。



インドネシア研修生への教育風景



中国関連会社社員への教育風景

## 2) 社会や地域とのかかわり

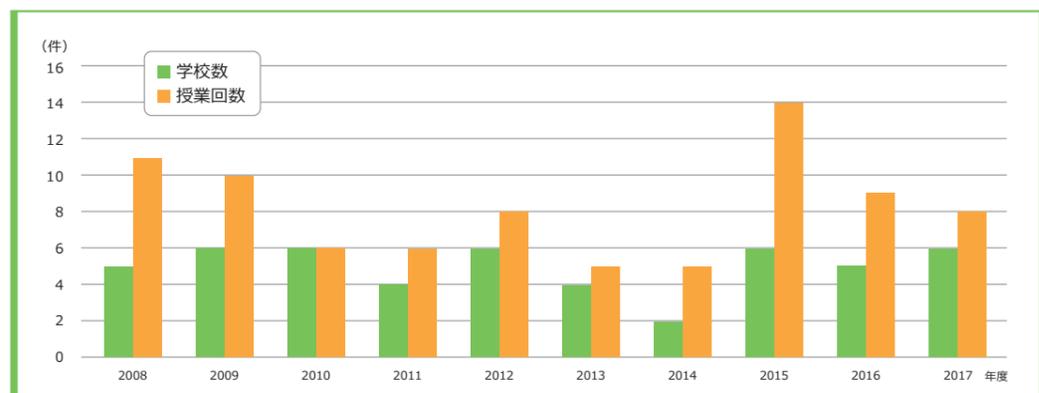
### ① 理科出前授業・イベント

戸田工業では、2008年度から、中国地方の小中学生を対象とした理科出前授業・イベントを実施しています。子どもたちは、色々な種類の永久磁石に触ったり、永久磁石、エナメル線コイルと乾電池を使った簡単手作りモーターを作ったりすることで、永久磁石や電磁石の働きを体験し、磁石を使った製品が身近な生活で役立っていることを学んでいます。こうした活動により、より多くの子どもたちが理科に興味を持ち、将来、日本の科学技術の担い手になってくれることを願っています。



理科イベント・出前授業の様子

出前授業実施件数



### ② 広島大学オープンキャンパスでの企業展示(化学の夢)

広島大学オープンキャンパス(2018年8月21日、22日)において、広島大学工学部第三類(化学・バイオ・プロセス系)では、広島大学化学系コースの受験を考えている高校生向けに、科学技術のすばらしさ、具体的に世の中でのどのように役立っているのかを企業展示を通して体験していただくために、中国地区化学工業懇話会(事務局:広島大学工学部化学工学講座)会員企業が“化学の夢”を醸し出すような先端素材や技術、おもしろい物質等を展示しました。戸田工業も毎年参加させていただき、高校生に化学のおもしろさ、不思議さ、夢を伝えていきます。

#### <当社出展内容>

- (1) 回り続ける独楽
- (2) サッカー電子チケット、おサイフケータイ用アンテナ(フェライトICタグ)
- (3) 熱くない?うるさくない?コーティング(断熱、防音塗料)
- (4) 化粧品(口紅)サンプル(ナノ粒子の応用)
- (5) スマートフォンやパソコン向けのリチウムイオン電池材料



企業展示場の風景



戸田工業ブース

### ③ 新技術交流会

中国地区化学工学懇話会(事務局:広島大学工学部化学工学講座、団体会員数62)では化学工学に関する学術および技術発展と会員相互の親交を図ることを目的として研究会、講習会、新技術交流会などの様々な活動を行っています。その中で第22回新技術交流会を2017年7月14日に大竹事業所にて開催いたしました。地元企業、大学関係者53名が参加して、新技術紹介セミナー、大竹事業所と創造センターの見学、懇親会を通して親交を深めました。



新技術交流会 セミナー風景

④おたけすき和紙保存会「コウゾ芽かきプロジェクト」ボランティア

和紙原料となるコウゾの幹を太く良質に育てるため、わき芽を摘み取る「芽かき」作業ボランティアに参加しています。6月～9月にかけて、2週間に一度の頻度でわき芽を摘み取ります。炎天下、生い茂ったコウゾをかき分けながらの作業は大変ですが、そのおかげで夏の終わりには3m以上に成長します。まっすぐ育ったコウゾを11月になって刈り取り、紙料づくりの冬の作業が始まります。



大竹市防鹿コウゾ地区 2017年7月



コウゾ

⑤花いっぱい運動

大竹事業所の最寄駅「玖波駅」周辺では、地元自治会の皆さんが中心となって「花いっぱい運動」という美化活動を行っています。戸田工業のメンバーも2011年からこの活動に参加し、年2回、道路脇の花の植え替えを行っています。



⑥献血活動

戸田工業グループでは、国内各拠点で定期的な献血活動を推進しています。2017年度の献血者数は104名（小野田事業所、大竹事業所、創造本部の合計）でした。継続的な献血活動に対し、2017年度、大竹事業所は広島県より感謝状を受けています。



3)働きやすさ(従業員インタビュー)

戸田磁鉄(深圳)有限公司 総経理

三田 隆文さん

2010年5月から韓国、2014年5月から現在の中国・深圳市に赴任し、海外赴任生活も9年目に入りました。現在、総経理を務めている戸田磁鉄(深圳)有限公司では、モーター用ゴム磁石およびNFC用フェライトシート加工品の製造・販売を手がけています。

異国ですので、言葉の壁や商習慣の違いがあるのは当然のこと、その違いにいかに関心を適応させていくか、また逆に「この場合、日本ではこのような対応をします。」ということをいかに現地社員に理解してもらうか。日々、そういった部分に心を砕いています。日本と同じように事が進まない現実を一旦受け入れ、そこからどう進めていくかが肝心です。

現地社員とのコミュニケーションの一環として、毎月の実績検討会による情報共有と報連相を実施しています。また、節目節目では食事会を開催し、中国独特の乾杯競争により草の根交流をしています。

年に一度は近場ですが慰安旅行にも行っています。過去は、海水浴や温泉などに行きました。毎年、「来年はどこへ行こうか?」など現地社員同士での会話もあり、これも職場の活力になってくれれば、と思っています。

また、個人的な話ですが、健康維持(増進ではなく維持)のため、地元日本人会主催による月一回のソフトボールリーグ戦に参加しています。若い頃と同じようなプレーはもはや絶望的ですが、アフターでの打上げも含め、良い気分転換になっていますし、日本人同士の情報交換としても貴重な場となっています。

今後も生々発展していくべく、現地社員一同と力を合わせがんばってまいりたいと思います。



創造本部 分析評価グループ

小原 香さん

私は、創造本部分析評価グループに所属し、主に製品に含まれる微量元素の定量、異物や他社品分析、新規分析手法の構築などを行っています。所属当初は、部署ごとに異なる材料の分析を行うため戸惑いましたが、職場の雰囲気は良く、上長や先輩、同僚の皆さんが親切に教えてくださいましたので、不安に感じることは少なかったように思います。また、社外の講習会や分析セミナーに参加させていただく機会もあり、日々の業務に役立つ情報や技術をタイミングよく習得できる環境にあります。

最近では、定常分析だけではなく他社品分析のような非定常分析や解析をお願いされることが増えました。これまでのやり方では解決できない問題も多く、より深い考察が要求されますが、分析評価グループ全員で協力し合い、目的達成に向けて取り組んでいます。

今後も迅速かつ正確な仕事を心掛け、皆様のご協力をいただきながら日々の業務に邁進していきたいと考えています。



### 4) 次世代育成支援、女性活躍推進活動

戸田工業では、次世代育成支援対策推進法および女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の規定に基づき、次世代育成支援および女性活躍推進に関して、次のような行動計画を策定し、計画に沿った活動を進めております。

#### ①次世代育成支援行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

	目 標	目標達成のための対策	2017年度の実績
1	計画期間中に、 <b>職場における育児に関する意識</b> を高め、育児を行う従業員に対し、理解と協力が得られる風土・体制とする。	育児に関する諸制度について、イントラネット等を通じ定期的に周知を図るとともに、管理職研修等においても必要な教育を継続実施する。	職場における女性比率を高めるべく定期採用・キャリア採用活動を積極的に実施した結果、2017年度末時点で13.3%に拡大(2016年度末12.1%)。
2	計画期間中に、育児休業の取得状況を以下のとおりとする。また <b>勤務時間短縮の適用期間を広げるとともに、勤務時間短縮、繰り上げ、繰下げ措置の取得を奨励する。</b> ※男性:取得者1人以上にする。 ※女性:取得率100%、復帰率100%を維持する。	・全従業員に、仕事と家庭の両立に関し啓蒙を継続して行う。 ・育児休業法、育児休業規程を周知し、特に男性の利用を促す。	2017年4月1日付改定の育児介護休業規程で、育児のために勤務時間の短縮または始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ措置できる期間を中学校就学の始期に達するまでの期間に拡大。女性育児休業取得率100%および復帰率100%を堅持。
3	計画期間中に、 <b>社員の総実労働時間を短縮する</b> (所定外労働時間の削減、年次有給休暇消化促進、年次有給休暇の時間単位利用の適用拡大等)。	年次有給休暇の使用実績70%以上の維持および取得促進のための施策を検討する。	・年間所定内労働時間の短縮(2016年度対比7時間減) ・ノー残業デーの実施(各拠点) ・有給休暇の計画的付与制度の実施(創造本部) ・レンタルオフィスを用いた業務効率化推進(東京OFFICE)
4	<b>子どもたちに、理科や化学のおもしろさを実感してもらう。</b>	・小・中・高校生対象のイベントへの出展を通じて、理科や化学への理解を促す。 ・小学生を対象に学校教育(出張授業等)への協力をを行う。	・理科・化学イベント出展件数: 2件 ・理科出前授業実施校数(回数): 6校(8回)

#### ②女性活躍推進行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

女性社員の比率が低く、女性応募者が少ないという当社の課題に対して計画期間中に、新卒採用者に占める女性比率を30%以上とするという目標を掲げ、以下の対策を進めています。

#### 【目標達成のための対策】

採用選考基準やその運用の見直しを行うとともに、就業後の仕事と家庭の両立支援策の拡充を行い、育児休業の取得率等の情報を開示することによって、応募者数を増加させ、新卒採用者に占める女性比率の増加を目指す。

【実績】データはいずれも2018年3月31日現在/2017年度実績

#### (1)採用



#### (2)継続就業・働き方改革

	男性	女性	平均
平均継続勤務年数	23.3年	12.6年	22.0年
平均年齢	49.5歳	39.4歳	48.3歳

月平均所定外労働時間	11.2時間
年次有給休暇平均取得率および平均取得日数	60.2%/11.6日

	男性	女性
育児休業対象者数	4名	4名
取得者数	0名	4名
取得率	0%	100%

※女性の取得率は過去10年以上、100%を継続。

#### (3)評価・登用(2017年3月31日現在)

係長級にある者に占める女性労働者の割合	10.7%
管理職に占める女性労働者の割合	1.3%
役員に占める女性の割合	0%

## 5) クラブ活動

戸田工業での福利厚生の一環として、社員同士の親睦とつながり、心と体の健康づくりを主な目的としたクラブ活動の活動費の一部を援助しています。2017年度に申請登録されたクラブは16団体あります。そのうち、小野田事業所の従業員を中心に活動している2つのクラブを紹介いたします。

### 小野田テニスクラブ

主な活動は、毎週火曜日に近隣企業の方々と合同で実施している練習会です。また、実業団(B)山口県予選大会や、小野田地区の近隣企業5社による交流戦への参加もしています。レッスンもありますので、初心者様も大歓迎です。興味がある方は、お気軽にお声かけください。



### ダンヒル(野球部)

当社の社員、当社の関連会社や子会社の社員、協力会社の社員と当社社員の家族でチームを結成し、山陽小野田市の地域の野球チームと定期的に試合を行っています。今年は、一つでも多くの勝利を勝ち取るため、毎週木曜日の夕方に、練習に励んでいます。試合は、月1回から2回ほど、山陽小野田市の市民球場で開催しています。お時間のある方は、ぜひ応援に来てみてください。よろしくお願いいたします。



## 6) 研修制度

### ①新入社員研修

教育制度の中でも新入社員研修には特に力を入れています。技術系・事務系関係なく、同じ研修を一緒に取り組んでいきます。

#### 導入研修

- 生活のリズム、気持ちを学生から社会人へと切り換え、仕事人としての基本を学ぶための研修です。
- 禅寺研修 (他社新入社員らとともにやる気持ち、生活リズムの切り替え)
- ビジネス研修 (マナーを始め、「心技一体」を実践できる「仕事人」の基本を修得)
- 社内研修 (会社組織、製品についての講義や社内制度の学習、工場見学他)

#### 現場研修(5月~9月までの5ヶ月)

- 長期間にわたり職場体験をすることにより、社風、現場を肌で感じ、更には先輩社員らと直に交流を行う研修です。
- 生産部門、研究開発部門、営業部門で、ものづくりや開発、営業活動の基礎を学んで、仕事を通じて実務知識を身に付けます。

#### 正式配属決定(10月)

- 配属は、各人の希望や適性、社内のニーズを照らし合わせて決定します。その後、社内ジョブローテーションにより、様々な経験を積み、成長をしていただきます。

### ②OJT研修

新入社員OJT制度の充実(育成計画、OJTリーダー研修の実施)、安全衛生・品質管理教育の実施、国内大学・研究機関への派遣等

### ③OFF-JT研修

階層別研修、次期経営幹部候補選抜研修、重点課題研修、職種別研修、メンタルヘルス研修等

### ④自己啓発

通信教育援助制度の実施  
(各種コースの中から各人が自由に講座を選択。優秀点で卒業すれば、受講料免除。)

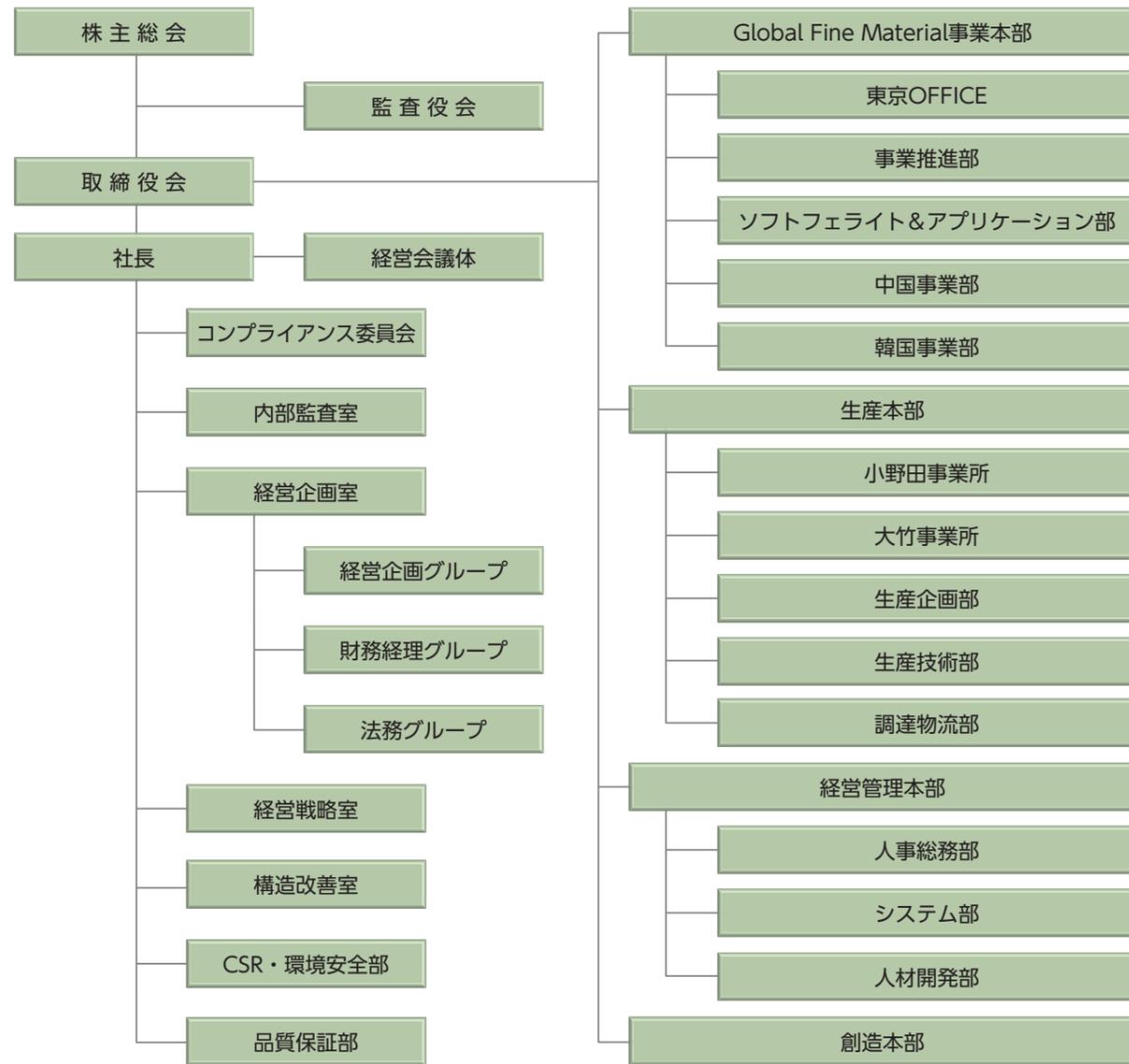


係長研修の様子



新入社員研修(禅寺研修)の様子

# 組織図



## <会社データ>

社 名：戸田工業株式会社 TODA KOGYO CORP.  
 本店所在地：広島市南区京橋町1番23号 三井生命広島駅前ビル 9階  
 創 業：1823(文政6)年  
 設 立：1933(昭和8)年11月30日  
 資 本 金：74億77百万円  
 従 業 員 数：343名(単体)、1,186名(連結) ※2018年3月31日時点

# 事業拠点

## 国内



※BTBM=BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社

## 海外



※機能性顔料=「各種着色材料」、「磁性粉末材料」 電子素材=「フェライト材料」「電池材料」



©2018 S. FC

戸田工業株式会社は、  
サンフレッチェ広島を応援しています！



©1992 S.F.C

